

一般社団法人新潟県臨床検査技師会
令和6年度通常総会議案書

期 日 令和6年5月26日（日）15時00分開会

会 場 新潟ユニゾンプラザ5階中研修室

総会次第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 資格審査報告
4. 議長選出
5. 議長挨拶
6. 総会役員選出
 - 1) 書記任命
 - 2) 議事録署名人任命
7. 表彰
8. 議事
 - 1) 第1号議案 令和5年度事業報告について
 - 2) 第2号議案 令和5年度収支決算書について
 - 3) 第3号議案 令和5年度監査報告について
 - 4) 第4号議案 支部提出議案について
 - 5) 第5号議案 日臨技定時総会提出議案について
 - 6) その他
9. 令和6年度事業計画および収支予算について（報告）
10. 総会役員解任
11. 議長挨拶
12. 閉会の辞

令和5年度事業報告

会長

渡邊 博昭

令和5年度は新型コロナウイルス感染症が5月8日から「5類感染症」に位置づけられたため、対面での会議や研修会が開催され、令和5年12月10日（日）の会期で朱鷺メッセにおきまして第96回新潟県臨床検査学会を開催し、大過なく盛会のうちに終了できた。これもひとえに講師、座長の皆様、関係各位のお力添えのおかげと実務委員一同、感謝申し上げます。

令和5年度も理事が一丸となって努力して参りましたが、至らぬ点がありご迷惑をお掛けしたと思います。しかしながら無事に会務を遂行できたことは会員の皆様のご理解とご協力によるものと改めて感謝いたします。

令和5年度の事業の概要を下記の通り報告する。

総務部

- ① 定款の確認および各種規定および手順書の見直しを行った。
- ② 表彰関係は例年度通りの事業を行った。

学術部

- ① 精度管理事業は、日臨技のシステムを使用して事業を行った。
- ② 検査研究部門活動は、日臨技助成金に対して16研修会の申請を行った。

広報部

- ① 会誌、ニュース、ホームページがそれぞれの役割を明確にして事業を行った。特にホームページは迅速な対応を行った。

1. 通常総会の開催

令和5年5月28日（日）、Zoomを用いたWEB形式で令和5年度通常総会が実施された。令和4年度事業報告、同決算報告、監査報告に関して、議決書ならびにWEB出席者において賛成多数で承認された。また、令和5年度事業計画（案）、収支予算（案）の確認もされた。

2. 会務の執行体制

1) 職務分担

令和5年度は役員任期の交替期にあつたが、前年同様に学術部、広報部、総務部の3部門に理事を配置し、各部門との連携を図りながら会務を執行した。

2) 事務局体制

事務局業務が非常に多くなっている現状の中、事務局作業は細分化され、各担当を中心にJAMTIS運用による会員情報登録および変更作業、諸会議の準備、会計を処理し、組織運営を果たしている。

3. 諸会議の開催

1) 理事会

- 第1回 令和5年4月16日（Zoomを用いたオンライン会議）
- 第2回 令和5年6月13日（Zoomを用いたオンライン会議）
- 第3回 令和5年6月18日（Zoomを用いたオンライン会議）
- 第4回 令和5年7月15日（Zoomを用いたオンライン会議）
- 第5回 令和5年9月30日（Zoomを用いたオンライン会議）
- 第6回 令和5年10月26日（Zoomを用いたオンライン会議）
- 第7回 令和5年11月18日（現地開催）
- 第8回 令和5年12月10日（現地開催）
- 第9回 令和6年1月13日（Zoomを用いたオンライン会議）
- 第10回 令和6年2月17日（Zoomを用いたオンライン会議）
- 第11回 令和6年3月31日（現地開催）

2) 常任理事会

定例常任理事会は開催しなかった。

3) 三役会議

急な協議事項等についてはメール等を利用し協議を行い、特に三役会議は開催しなかった。

4) 各種委員会の開催

(1) 会誌編集委員会

新臨技会誌（季刊発行）第327号から第330号の編集業務のため、メール等を利用して実施した。

(2) ホームページ委員会

会員への情報伝達手段としてホームページの充実と運用に努めた。

(3) 検査研究部門委員会

各検査研究分野の活動計画並びに運営等を協議するため1回開催した。

(4) 生涯教育研修委員会

理事会や各支部生涯教育委員と連絡をとりながら研修会予定および参加者の登録を行った。

(5) 精度管理委員会

精度管理調査の事業計画、集計処理状況把握、検討会企画の協議のため5回開催した。

(6) 表彰委員会

各種表彰の対象者選考のため、ZoomによるWEB審議を1回開催した。

4. 組織対策

1) 入会対策

会員数の多い年代が定年を迎え会員数の減少が懸念されるが、各支部役員および各施設連絡責任者の協力により入会を勧めた。

本年度の新入会および再入会の会員数は66名。

本会の正会員総数は1,376名。(令和6年3月現在)

技師連盟入会者数は17名18口。

社会的地位向上および今後の業務拡大の為に、更に多くの会員の入会をお願いする必要がある。

2) 各支部との連携強化

各支部ともその地域性を生かした独自の活動が浸透し、年々活発化している。支部総会等に役員を派遣し、連携強化を図った。

3) 会員施設との連携強化

会員施設との連携を強化するため、施設運営管理者協議会を設置し、令和5年8月26日に令和5年度施設運営管理者協議会を開催した。現在(令和6年3月)の登録施設数は55施設である。今回の協議会では、新潟県臨床検査技師会の活動方針、新潟県における臨地実習指導者講習会、タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会実技研修会の進捗状況、日本臨床検査技師連盟の活動報告、日本臨床衛生検査技師会 代表執行理事 会長 宮島 喜文による特別講演が行われた。新潟県臨床検査技師会の今後の展望、厚生労働大臣指定講習会の新潟県での進捗状況、日本臨床検査技師連盟の活動の詳細についての情報を共有した。

5. 地域保健医療活動および公益事業

2023年5月以降に新型コロナウイルス感染症が5類相当に引き下げられことより、公益活動が再開され始めた。令和5年11月19日には、全国「検査と健康展」2023 in NIIGATAを開催した。十分な感染対策を講じながら体験型のイベントを実施し、臨床検査技師の仕事内容についての体験や紹介を実施した。また、新潟県細胞検査士会と連携して子宮頸がんの早期発見と定期検診受診率向上啓発活動「LOVE49プロジェクト」を行った。

6. 求人情報

日臨技への情報登録とともに、会員へは新臨技ニュースやホームページ等で求人情報を提供した。

7. 災害関連

1月1日16時10分頃、石川県を中心に発生した震度7の大地震により、新潟県内でも多くの被害が発生した。新臨技会員の被害状況、施設の被害状況を把握するために調査を実施するとともに、本災害にて、被害を受けられた方には日臨技の共済制度を利用いただく手配を案内した。新臨技会員の被害状況、施設の被害状況調査結果は日臨技に情報共有した。このほか、災害支援活動に関するマニュアル整備を各支部長と連携し、進めている。

8. 表彰関係(敬称略)

1) 第41回篠川至賞

学 術 賞 部 門 姫 路 由香里(下越総合健康開発センター)

学 術 賞 部 門 柴 田 真由美(新潟大学地域医療教育センター・魚沼基幹病院)

2) 令和5年度功労者表彰

(1) 永年会員功労者表彰 該当者39名

(2) 特別功労者表彰 高 橋 一 哲(新潟県立新発田病院)

3) 名 誉 会 員 該当者なし

4) 令和3年度生涯教育履修表彰

奨 励 賞 川 野 剛(立川メディカルセンター立川総合病院) 2,440点

馬場 健太 (済生会新潟病院)	1,160点
柳沢 悦子 (新潟県立吉田病院)	940点
新人賞 馬場 健太 (済生会新潟病院)	1,160点

9. 日臨技からの政策渉外関連調査

日臨技より「政策渉外関連事項等における現状把握のための調査協力施設の選定」が調査の精度を上げるために、新潟市民病院、新潟県立がんセンター新潟病院、JA 新潟厚生連豊栄病院、湯沢町保険医療センターの4施設が登録された。

学術部	副会長 桑原喜久男
-----	-----------

令和5年度は新潟県臨床検査学会、検査研究部門活動、精度管理事業、生涯教育を中心に活動をした。新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられ、この期間で定着したWeb研修会への参加は堅調であったが、対面での研修会への参加者数が少ないなど、ウィズコロナでの研修会を検討しなければならない時期に来ている。研修会の開催に際しては日臨技の生涯教育推進研修会助成金の申請を行った。第96回新潟県臨床検査学会は現地開催として開催する事ができた。精度管理事業は新潟県より委託を受けた事業であり、例年通り、日臨技のシステムを利用して行う事ができた。精度管理報告会は4年ぶりに現地での開催となった。

1. 学会 桑原喜久男

令和5年12月10日(日)に朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにおいて、山崎学会長のもと、第96回新潟県臨床検査学会の開催をした。現地開催として、感染管理を行い、運営は大過なく行う事が出来た。参加者数276名(一般会員:222名、賛助会員:34名、新潟県会員:1名、学生:19名)の参加を頂き、一般演題22演題、教育講演4講演、特別講演1講演、学会長特別企画パネルディスカッションを開催した。96回は学会長特別企画を開催、上越市のスイーツが振舞われる等、学会長の『特色』を出す事が出来た。95回に引き続き、多くの会員が参加した学会内で各種表彰、篠川至貴受賞記念講演を行った。賛助会員の皆様のご協力のもと、ランチオンセミナー、機器展示は3年ぶりに開催する事ができた。

令和7年度日臨技北日本支部医学検査学会を新潟市で開催する事が決まっており、実務委員をお勤めいただいた理事各位、検査研究部門員各位の学会企画、準備の参考になる学会となった。

2. 検査研究部門 小林 清子

令和5年度検査研究部門は、9部門6分野(生物化学分析部門、臨床一般部門、臨床血液部門、臨床微生物部門、輸血細胞治療部門、病理細胞部門、染色体・遺伝子部門、臨床生理部門、臨床検査総合部門)の9部門、臨床生理部門は、神経生理分野、循環・呼吸生理分野、超音波分野の3分野、臨床検査総合部門は、管理運営分野、救急検査分野、公衆衛生・生殖医療分野の3分野)で組織構成され、部門構成員は最大各部門6名、各分野4名、活動費は各部門12万円、各分野8万円で運営された。

今年度、検査研究部門が開催した研修会は、合計18回であった(昨年度14回、一昨年度13回)。各部門分野別では、生物化学分析部門1回、臨床一般部門2回、臨床血液部門2回、臨床微生物部門2回、輸血細胞治療部門2回、病理細胞部門1回、染色体・遺伝子部門1回、臨床生理部門4回(神経生理分野1回、循環生理・呼吸生理分野1回、超音波分野2回)、臨床検査総合部門3回(管理運営分野1回、公衆衛生・生殖医療分野1回、救急検査分野1回)であった。開催形式は、現地開催や実技研修が11回、Zoomを用いたオンライン研修会が7回と、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、対面での開催が戻りつつある状況であった。

研修会の内容は、基礎的内容から専門性の高い内容のものまで会員のニーズを鑑み、企画運営されており、多くの会員が参加しやすい内容であった。また、今年度は臨床一般部門、臨床血液部門、輸血細胞治療部門において実技研修会、臨床生理部門においてライブデモが開催された。実技研修は会員からのニーズが高く、技

術面の向上に寄与する重要な研修会の一つであり、次年度の研修会も、新型コロナウイルス感染対策を十分に行ったうえで、現地開催や実技研修会の開催にオンライン研修会を並行しながら、知識や技術の向上のため、会員の声を反映した有益な学術活動を運営していく。

検査研究部門の研修会

部門	開催日	生涯教育点数	参加人数		研修会内容
			会員	非会員	
生物化学分析	令和6年 3月25日(月)	専門20	63名	0名	【新潟県臨床検査技師会生物化学分析部門 日本臨床化学会甲信越支部新潟分会第54回研修会 生物試料分析科学会甲信越支部新潟分会第20回研修会 合同研修会】 1. 「生化学分析装置の血清情報について」 日立ハイテク社 2. 「質量分析装置の基礎」 島津製作所
臨床一般	令和5年 7月8日(土)	専門20	5名	0名	【令和5年度 臨床一般部門研修会(Web開催)】 1. 「腎障害について理解する」 熊本再春医療センター 加藤 裕一 2. 「尿検査の視点が変わるゾ、ポドサイト」 筑波大学附属病院 横山 千恵 ZoomによるWeb開催
	令和5年 12月17日(日)	専門20	41名	0名	【令和5年度 臨床一般部門実技研修会】 1. 「尿沈渣標本 鏡検実習」 2. 症例解説「学校検尿で蛋白尿・血尿を指摘された一例」 新潟医療福祉大学医療技術学部 横山 貴 現地開催
臨床血液	令和5年 7月15日(土)	専門20	29名	0名	【令和5年度 臨床血液部門実技研修会】 1. 「顕微鏡の使い方」 新潟大学地域医療教育センター・魚沼基幹病院 小林 徹 2. 「血液細胞観察の仕方および症例解説」 長岡赤十字病院 野中 拓 3. 鏡検実習 現地開催
	令和5年 12月22日(金)	専門20	31名	0名	【令和5年度 臨床血液部門研修会(新潟支部合同)】 1. 「造血器腫瘍のWHO分類第5版の改訂のポイント」 獨協医科大学病院 臨床検査センター 新保 敬 ZoomによるWeb開催
臨床微生物	令和5年 10月21日(土)	専門20	22名	0名	【令和5年度 臨床微生物部門研修会】 1. 「CLSI M100-ED33の主な変更点について」 バックマン・コールター株式会社 マイクロバイオロジー統括部 学術クリニカルアプリケーションズ部 原 みゆき 2. 「臨床微生物検査の最新トピックス2023」 東京医科大学 微生物学分野 大楠 清文 現地開催
	令和6年 3月10日(日)	専門20	23名	0名	【令和5年度 第2回新臨床微生物部門研修会】 1. 「確認認地の接種と同定のポイント」 栄研化学株式会社 販売推進二部一課 山浦 裕紀 2. 「病原性大腸菌に関する疫学・病原性・検査法等について」 国立感染症研究所 細菌第一部 伊豫田 淳 現地開催
輸血・細胞治療	令和5年 6月3日(土)	基礎20 (賛助会 員 2名 を含む)	59名	2名	【令和5年度 輸血細胞治療部門研修会】 1. 「輸血検査の基礎」 株式会社イムコア 学術サポート 八木 良仁 2. 「頭に入れておきたい検査手技の基本」 新潟県立坂町病院 菅原 陽子 3. 「認定輸血検査技師 認定試験について」 信楽園病院 俣坂 晴香 新潟県立新発田病院 関 俊輔 現地開催
	令和5年 9月17日(日)	専門20	32名	0名	【令和5年度 輸血細胞治療部門輸血検査実技講習会】 1. 「凝集判定の目合わせ、血液型(3検体)、不規則抗体検査(1検体)、同定検査(机上1問)凝集の見方、試験管の振り方、結果の解釈等についての解説」 県立燕労災病院 大倉 一晃 2. 「カラム凝集法の原理について」 オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社 仲林 達郎 現地開催
病理細胞	令和5年 10月15日(日)	専門20	34名	1名	【令和5年度 新潟県臨床検査技師会 病理細胞部門研修会(Web開催)】 1. 「各施設での検体管理～工夫と課題～」 済生会新潟病院 竹下奈津子 新潟市民病院病理検査科 戸田裕一郎 新潟大学医歯学総合病院 病理部 高橋加奈絵 2. 「病理検体の管理－検体採取から廃棄まで－」 順天堂大学医学部附属練馬病院 飯野 瑞貴 3. 「ゲノム検査に配慮したホルマリン固定」 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 医療技術部 病理検査課 岩田 英紘 4. 「医療廃棄物の基本と病理検体の処分」 新潟メスキュード株式会社 下関 慎哉 ZoomによるWeb開催
染色体・遺伝子	令和5年 10月28日(土)	基礎20	20名	0名	【令和5年度 染色体・遺伝子部門研修会】 1. 「マイクロベットの信頼性を確保するために」 関東化学株式会社 試薬事業本部 試薬学術部 機材課 岡田 久 2. 「遺伝子関連検査における品質保証について」 国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院 臨床検査科 柿島 裕樹 現地開催

部門	開催日	生涯教育点数	参加人数		研修会内容
			会員	非会員	
臨床生理	神経生理分野 令和5年 9月30日(土)	専門20	41名	0名	【神経生理検査ライブデモ実技研修会】 1. 「実技・ライブデモ1 上肢(手根管症候群・正中神経 肘部管症候群・尺骨神経)」 新潟リハビリテーション病院 藤井 佳子 2. 「実技・ライブデモ2 下肢(腓骨神経・脛骨神経・腓腹神経・F波)」 亀田第一病院 坂井 路子 現地開催
	循環・呼吸生理 分野 令和6年 2月17日(土)	専門20	93名	0名	【心電図セミナー2023】 1. 「心電図検査の実際」 新潟県立リウマチセンター 検査科 長谷川恵美 2. 「運動負荷試験の基礎知識」 国立病院機構西新潟中央病院 臨床検査科 中村 良幸 3. 「ペースメーカーの基礎」 アボットメディカルジャパン合同会社 CRM事業部 新潟営業所 後藤 晋一 4. 「みんなで守る心房細動患者～アブレーション治療とは～」 立川総合病院 循環器内科 佐藤 光希 ZoomによるWeb開催
	超音波分野 令和5年 8月26日(土)	専門20	6名	0名	【令和5年度 超音波検査士対策セミナー】 1. 「日々の業務につながる超音波基礎講座」 GEヘルスケアジャパン 山本 幸弘 現地開催
	超音波分野 令和5年 8月26日(土)	専門20	50名	1名	【超音波セミナー2023】 1. 「GLS計測と左房容積計測の基本」 新潟大学医歯学総合病院 医療技術部臨床検査部門 小林 絃子 2. 「下腹部臓器(膀胱・前立腺・子宮・卵巣・消化管・リンパ節など)のルーチン化のススメ」 相模原赤十字病院 生理検査課 森 貞浩 3. 「下肢静脈瘤検査法のコツと評価のポイント」 東邦大学医療センター大森病院 臨床生理機能検査部 八俣 恒芳 4. 「甲状腺結節性病変と周辺リンパ節の評価方法」 東海大学医学部付属八王子病院 臨床検査技術科 生理検査 川合 健治 現地開催
臨床検査総合	管理運営分野 令和6年 1月20日(土)	基礎20	66名	0名	【令和5年度 臨床検査総合部門管理運営分野研修会】 1. 「ISO 15189:2022 新設された要求事項について」 ベックマン・コールター株式会社 清水 義秋 2. 「品質保証施設認定制度」 日本臨床衛生検査技師会 滝野 寿 ZoomによるWeb開催
	救急検査分野 令和5年 7月22日(土)	専門20	56名	0名	【令和5年度 新潟県臨床検査技師会臨床検査総合部門 救急検査分野研修会 救急検査セミナー2023】 1. 「今年もやります! 苦手克服! 血液ガス分析!」 シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社 濱田 宏輝 2. 「そのスキル救急室で役立ててみませんか!」 国家公務員共済組合連合会 枚方公済病院 検査科 藪 圭介 ZoomによるWeb開催
	公衆衛生・生殖 分野 令和5年 11月18日(土)	専門20	20名	0名	【令和5年度 臨床検査総合部門(公衆衛生・生殖医療分野) 研修会】 1. 「フィルムアレイによる感染症パネル検査の新たな可能性」 ビオメリュージャパン株式会社 臨床学術部 北浦 芳之 2. 「新潟県における1950年代からのマダニ分布の偏移とマダニ媒介性感染症」 新潟大学医学部保健学科 検査技術科学専攻 サトウ 恵 現地開催

3. 精度管理事業

田端 篤

本年度も新潟県から新潟県医師会への委託事業である令和5年度(第44回)新潟県臨床検査精度管理調査を行った。技師会としても積極的に当事業に協力し、集計、解析を含めた実務の中心的役割を果たすと共に、臨床検査の精度向上に努めた。本事業を担当する精度管理委員会はWeb会議及びメールなどを用いて実施計画及び配送準備を行い、令和5年10月23日(月)から冷凍冷蔵別送で各施設に配布した。その後、データ集計、解析を実施した。微生物検査は技師会が担当する一般菌1菌種の薬剤感受性試験と、新潟県保健環境科学研究所が担当する2菌種の同定を合わせて実施した。試料は10月25日(水)から10月27日(金)の間に中継機関で参加施設が資料を受領した。

調査対象として施設数は、全体で178施設、今年度の参加施設は164施設(92.1%)であった。また、コロナウィルスの影響でWeb開催となっていた精度管理報告会を4年ぶりに現地開催することが出来た。

精度管理調査事業の内容(測定項目)は以下のとおりである。

- 1) 臨床化学検査 ※生化学試料: 冷凍試料、HbA1c 試料: 冷蔵試料
・評価対象項目(21項目)

グルコース (Glu)、ナトリウム (Na)、カリウム (K)、クロール (Cl)、カルシウム (Ca)、尿酸 (UA)、尿素窒素 (UN)、クレアチニン (Cre)、総コレステロール (TC)、中性脂肪 (TG)、HDL-コレステロール (HDL-C)、LDL-コレステロール (LDL-C)、アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ (AST)、アラニンアミノトランスフェラーゼ (ALT)、アルカリフォスファターゼ (ALP)、乳酸デヒドロゲナーゼ (LD)、アミラーゼ (AMY)、クレアチンキナーゼ (CK)、 γ -グルタミルトランスフェラーゼ (GGT)、コリンエステラーゼ (ChE)、ヘモグロビン A1c (HbA1c)

・集計報告のみの項目 (7項目)

総ビリルビン (TB)、無機リン (IP)、鉄 (Fe)、マグネシウム (Mg)、総蛋白 (TP)、アルブミン (Alb)、C反応性蛋白 (CRP)

本年度も試料11にはヒトプール血清を使用しており、アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ (AST)、アラニンアミノトランスフェラーゼ (ALT)、クレアチニン (Cre) において低濃度となったため暫定的に評価基準を目標値 $\pm 10\%$ とした。乳酸デヒドロゲナーゼ (LD) は報告値収束していることから本来の評価基準であるに $\pm 3.9\%$ とした。また、ナトリウム (Na) 及びクロール (Cl) は日本臨床衛生検査技師会精度管理調査と同様に評価B以下の基準を変更した。カリウム (K) は B_A が1.9%あるが、規格の運用において、「測定値が小さく、目標値 $\times B_A$ (%) の値、あるいは目標値 $\times 5\%$ (許容誤差限界上限) の値が、日常報告している結果報告桁数の最小単位未満となる項目は結果報告桁数の最小幅の2倍を許容誤差限界とすることを推奨する。」となっていることから目標値 $\pm 0.2\text{mEq/L}$ とした。

なお、尿素窒素の ReCCS の標準物質の認証値は内因性のアンモニアを含んでいないことからアンモニア消去 (回避) 法以外の測定方法、測定方法未記入等は目標値の設定が不可能であるため評価対象外とした。

ドライケミストリー法はナトリウム (Na)、カリウム (K)、クロール (Cl) はドライケミストリー法以外の方法と同様の評価基準としたが、それ以外の評価項目はマトリックスの影響を受けやすいため、評価Bを1.5倍 (目標値 $\pm 7.5\%$) に広げた。また、集計に用いた精度管理用システム (JAMTQC) は6施設未満の集団の統計処理、および目標値の設定が不可能である。そのため、方法別および試薬別に目標値を設定した項目で6施設未満の場合は評価を「施設別報告書」に反映させさせることが不可能であることから「対象外」の表記になる。

昨年度、試験的に参加施設数がほとんどの項目で例年6施設未満のドライケミストリー法において、初めての試みとして評価を行った。ただ、目標値 (メーカー報告値) と施設報告平均値で差がある項目について評価を行うことについて指摘を受けた。今年度、試験的に目標値と施設報告平均値の差が評価基準より大きい項目については評価対象外とした。評価対象外の施設においてはご不便をおかけすることをお詫びするとともに、下記の目標値を参考に自施設の正確度の判断をお願いしたい。

昨年度の調査より本報告書への調査結果報告の掲載について2点ほど変更を行った。まずは、「測定方法別バイアスの許容限界を満たさない施設」、「項目別・方法別統計表」の掲載を取りやめて、その代案として、(一社)日本臨床衛生検査技師会の精度管理用システム (JAMTQC) にアップロードし、各施設にてダウンロード可能となるように変更した。また、併せて、測定試薬ごとに集計表もアップロードした。この理由としては、精度管理調査に係る経費が増加しており、現行の調査を継続するには経費削減が必須であり、この一環として、報告内容の一部を Web 掲載することで経費削減を図るためである。

次に、実施全項目に対して調査結果解析を行い、その内容を掲載していたが、評価対象項目のみ結果解析を行い、その内容を掲載した。この理由としては、各項目において報告値が収束しており、解析結果が近年同様な内容となっていた為である。評価対象以外については集計統計表のみとした。

DRY 法は WET 法に比べ、測定機器の管理、試薬の管理、検体の測定に至るまで簡便で使い勝手の良い方法であり、メリットも多数ある。しかし、測定原理等の違いもあり、メーカー間差の大きい項目もま

が見られる。CVについては改善傾向がみられるものの、WET法より大きくなっている。また、今年度、初めて参加したi-STAT（アボット）については報告のあったGUL、Naともに他のメーカー報告とかなり乖離した報告値となっていた。この原因としては血清検体での測定に対応していないことが考えられる。測定にあたっては各測定機器、試薬の特性、測定可能検体等を十分に理解して日々の業務を実施する必要がある。

JSSC標準化対応法となっている項目においては、各施設においてトレーサビリティがとれている事を確認して頂きたい。また、今一度キャリブレーションのタイミング、毎日のコントロール測定等、確実な精度管理をお願いしたい。また、機器の説明書に記載されている十分なメンテナンスも併せてお願いしたい。日々のメンテナンス、精度管理にはメンテナンス日誌、精度管理日誌を作成、活用して確実な精度管理の実施を目指して頂きたい。

目標値との乖離が大きかった施設では原因の追究、是正をお願いしたい。今後も、精度管理の重要性を考え精度維持努めて頂き、質の高い精度（品質保証）の観点で日々の業務をお願いしたい。最後に、DRY法メーカーにはJSSC標準化対応法となっている項目でもメーカー間差がみられる事から、メーカー間差の無い試薬の開発やWET法と同等の観点で精度管理を行える市販管理血清の開発をお願いしたい。

2) 血球計数検査（CBC）※血液試料：冷蔵試料

CBC 6項目（ヘモグロビン濃度（Hb）、血小板数（PLT）、白血球数（WBC）、赤血球数（RBC）、ヘマトクリット値（Ht）、平均赤血球容積（MCV））

血球計数検査（CBC）については項目別統計において機種間差を含んだ上で各項目のCVは評価基準内に収まっており、全体的に良好な収束を示した。2021年度より評価基準を変更した血小板数において、評価B-Cの施設数が7施設から6施設へ減少した結果となった。機種別統計では概ね各機種の目標値に近似した報告値となり、良好な収束がみられた。ただ、今年度も白血球数において、入力桁数間違いと思われる2施設が評価Dであった。報告に際しては、十分に注意して頂きたい。

3) 血液検査フォトサーベイ

血液検査フォトサーベイについては、今回、4年ぶりに参考調査として行った。その他のフォトサーベイでよく出題される細胞を中心に設問を作成し、調査を行った。その結果、どの設問においても80%以上と高い正解率であり、概ね良好な結果を得た。今後も継続して血液検査フォトサーベイが実施できるよう努めていきたい。

4) 微生物検査（同定）

試料A、試料Bにはそれぞれ1種類の細菌が含まれているので発育した菌について結果を報告。

微生物検査（同定）では、試料Aは「*Salmonella Enteritidis*」を正解、「*Salmonella sp.*」を許容正解とし、正解は60施設（98%）となった。資料Bでは「*Streptococcus agalactiae*」を正解、「*Streptococcus sp.*」を許容正解とし、正解は58施設（100%）となった。例年、同定された菌種と性状確認試験の結果に整合性の取れない例がみられる。得られた結果については、結果報告前に成績等により性状を確認し、成績書作成時にはダブルチェックする等、十分な確認をお願いする。

5) 微生物検査（薬剤感受性試験）

試料Cに含まれる病原細菌（*Escherichia coli* NCTC 13351）セフトキシム（CTX）、セフメタゾール（CMZ）、レボフロキサシン（LVFX）の3薬剤について薬剤感受性試験を実施した。※薬剤感受性の判定はClinical and Laboratory Standards Institute（CLSI）M100-30thEditionの基準を用いた。

試料Cでは、ESBL（TEM-3）を産生する*Escherichia coli* NCTC 13351を用いて、CTX、CMZ、LVFXの薬剤感受性検査の調査を行った。CTXの微量液体希釈法においてA評価が90%を下回る成績であったが、全体を通して良好な成績であった。しかしLVFXにおいて、CLSI M100-28th Edition以前の判定基

準を用いたと推測される回答があった。該当施設においては、判断基準の確認をお願いしたい。また、ディスク拡散法において、CMZでカテゴリー判定がSとなるものがRという回答があった。該当施設においては菌液の濃度調整など検査手技の確認をお願いしたい。

付加試験にてESBL確認試験を実施している施設は、48施設中35施設（72.9%）であった。ESBL産生菌は、日常的に検出される頻度が高く、院内感染対策上重要な耐性菌である。日常検査でESBL確認試験を実施していない施設においては、検査体制の検討が望まれる

6) 一般検査フォトサーベイ

一般フォトサーベイ18設問（尿沈渣検査、髄液検査および寄生虫検査）を実施した。設問1～12を評価対象、設問13～18を参考調査設問および教育設問とした。

今年の精度管理調査は、尿中赤血球形態において低正解率となった。尿中赤血球形態の鑑別は、例年低正解率になる事が多い。血尿診断ガイドライン2023での「成人の血尿診断アルゴリズムによると、尿沈渣検査における赤血球形態の判定は泌尿器科専門医へ紹介するか、腎臓専門医へ紹介するかの大きな要素となっている。医師の診断に寄与するために、日頃から、赤血球形態の判定方法を確認し、正確な報告を心がけていただきたい。

寄生虫検査については、正解率は高く、鑑別精度は高い。しかしながら検査実施件数は多くなく、外部委託する施設が多くなっている。毎年、一定数の寄生虫感染症は報告されており、虫卵の鑑別や虫体の保存法の確認を含め、最低限の検査が実施出来るよう準備しておく必要がある。

4. 生涯教育

近藤 善仁

各検査研究班・各支部担当者にご尽力いただき、行事登録および参加者登録を行ってもらった。新型コロナウイルス感染症が5類へ移行し対面での研修会も開催できるようになり、web研修会も依然活発に行われた中、生涯教育事業に関して大きなトラブルはなかった。関係各位に感謝したい。尚、日臨技より支給される「生涯教育推進研修会助成金」の交付額は、16研修会が対象となり、計715,500円を受け取ることができた。

広報部

副会長 田端 篤

今年度も、新臨技会誌、新臨技ニュース、新臨技ホームページの運営を軸に全会員にリアルタイムに情報の提供が出来るよう心がけて運営をしてきた。ホームページは即時に会員にお知らせできる事から、有益な情報をできるだけ早く掲載することに努めた。また、昨年に引き続き文書発送についてシステムを用いて、メールにて各施設に理事会終了後に発行する新臨技ニュース・各種案内や文書を発信し、即時性を重視し情報発信を行ってきた。会誌に関しても、研修会、学会の開催が難しい中、Web研修会の内容や認定技師精度紹介、施設紹介など会員に親しみやすい内容から、学術的な内容まで幅広い内容の会誌発行を務めてきた。

1. 新臨技会誌

神林 真弓

〔講義・研究〕基礎的な内容から最新の情報まで幅広い分野において掲載した。

〔研修会報告〕徐々に現地開催も再開されるようになり例年通り多くの方から研修会参加報告の原稿をいただけた。

〔認定技師制度紹介〕臨床検査技師に関わる様々な認定資格を紹介し、スキルアップに繋がる情報を提供した。

〔ペンリレー〕〔新入会員紹介〕〔検査技師として～私の奮闘記～〕

日々の出来事や趣味の話などが投稿できるペンリレー、職場での日々の成長や頑張りが伝わる奮闘記、そして新しく会員になられた方々の紹介を掲載することで会員同士の繋がりをつくる頁とした。

〔公益活動参加報告〕いくつもの公益事業が再開し、理事や会員多数で参加することが出来た。臨床検査技師が活躍する場の一つとして会誌を通して会員の方にも公益事業の大切さを周知していただけたと思う。

〔施設紹介〕 様々な施設の紹介をすることで、施設情報の共有を図った。

〔学会参加報告〕 初めて学会発表をした会員に感想やプロセスを含めた報告書を執筆していただき、これから発表を考えている方の参考にしていただけるよう努めた。

年4回 季刊発行（327号から330号まで）

〈令和5年度会誌掲載内容〉

327号 令和5年4月1日

〔講義〕

生化学自動分析装置による電解質測定について

(株) 日立ハイテク医用アプリケーション開発部

閉塞性睡眠時無呼吸症候群と検査施設外睡眠検査 小倉佳菜子

〔篠川 至賞とは〕 篠川 至賞について 畔上 公子

〔第95回新潟県臨床検査学会 特集〕

第95回新潟県臨床検査学会テーマ賞を受賞して 鈴木 秀幸

初めて学会発表してみても

松崎菜々子、齋藤 愛望、近藤 美孔

第95回新潟県臨床検査学会に参加して

関 俊輔、関 元気、辻川明香里

第95回新潟県臨床検査学会開催報告

田中 利佳

〔研修会参加報告〕

病理細胞部門研修会に参加して

大瀧 直也

心電図・呼吸器能検査セミナー2022に参加して

瀧澤 悠太

令和4年度中越支部ふれあい研修会に参加して

安達 俊幸

令和4年度臨床検査総合部門管理運営分野研修会に参加して

柳沢 悦子

臨床検査総合部門（公衆衛生・生殖医療分野）研修会に参加して

林 嵩憲

〔お知らせ〕 第96回新潟県臨床検査学会案内（予告）

〔施設紹介〕 けいなん総合病院

山川 栄一

〔ペンリレー〕

丸山菜々子

〔検査技師として～私の奮闘記～〕

小嶋 健太、貝瀬 啓悟、植木麻莉絵、石澤 美香、藤井 雄之介

〔会報〕

2022年度（令和4年度）Zoomによる第5回理事会議事録

2022年度（令和4年度）Zoomによる第6回理事会議事録

新入会員紹介

新臨技日誌

〔行事予定〕

〔編集後記〕

328号 令和5年7月1日

〔あいさつ〕 会長就任のあいさつ

渡邊 博昭

〔講義〕

医療現場でのDX（デジタルトランスフォーメーション）事例のご紹介

大里真智子

〔受賞者のことば〕

篠川至賞を受賞して

柴田真由美

篠川至賞を受賞して

姫路由香里

生涯教育新人賞を受賞して 馬場 健太
〔研修会参加報告〕
令和4年度第2回佐渡支部研修会に参加して 渡部 聖也
令和4年度第2回新臨技臨床微生物部門研修会参加報告 青木 愛子
令和4年度第3回佐渡支部研修会に参加して 難波 大希
第3回下越支部研修会参加報告 齋藤 直子
第2回新潟支部研修会に参加して 五十嵐佐登美
中越支部講演会に参加して 大塚 彩菜
〔ペンリレー〕 原 大樹

〔検査技師として～私の奮闘記～〕

小野塚涼華、小熊 美結、太田 大智、橋井 美月、佐藤なつめ、熊木 菜緒、井部ひおり

〔会報〕

令和4年度監査報告
令和5年度通常総会からのアンケート
2022年度（令和4年度）Zoomによる第7回理事会議事録
2022年度（令和4年度）Zoomによる第8回理事会議事録
2023年度（令和5年度）Zoomによる第1回理事会議事録
新臨技会日誌

〔行事予定〕

〔編集後記〕

329号 令和5年10月1日

〔講義〕

潜在性結核感染症（LTBI）検査の役割の遷移について 極東製薬工業株式会社 高橋 徹

〔案内〕第96回新潟県臨床検査学会

〔公益事業参加報告〕家族で守ろうパパの健康の参加報告 和智 順子

〔研修会参加報告〕

上越支部春季研修会に参加して 佐藤 唯
令和5年度臨床血液部門実技研修会に参加して 佐藤 晴香
令和5年度新臨技中越支部フォーラム参加報告 松井 杏華
令和5年度輸血細胞治療部門研修会に参加して 福田 祐介
救急セミナー2023に参加して 吉原 涼真
臨床一般部門研修会に参加して 久住 亮介

〔施設紹介〕桑名病院 三原かおり

〔ペンリレー〕 馬場 健太

〔検査技師として～私の奮闘記～〕

山田 優、石山 奈那、小林 加奈、長谷川雄也、片桐 美優

〔会報〕

2023年度（令和5年度）Zoomによる第2回理事会議事録
2023年度（令和5年度）第3回理事会議事録
新入会員紹介
新臨技会日誌

〔行事予定〕

〔編集後記〕

330号 令和6年1月1日

〔あいさつ〕年頭のご挨拶

渡邊 博昭

〔講義〕採血業務における基礎的な注意点「採血管の取り扱いと検査値への影響を中心に」

服部 和久

〔公益事業参加報告〕

佐渡糖尿病ウォークラリー2023に参加して

磯西 拓人

第35回糖尿病を知るつどい（アオーレで知ろーれ糖尿病）2023に参加して

角屋 勇気

糖尿病を知るつどい2023に参加して

大橋 孝宏

全国『検査と健康展』2023に参加して

北神優太郎

〔研修会参加報告〕

令和5年度染色体・遺伝子部門研修会参加報告

大野 仁子

上越支部秋季研修会に参加して

谷川 幸乃

超音波セミナー2023に参加して

佐藤 美咲

第1回下越支部研修会に参加して

石川 柚葉

佐渡支部研修会に参加して

齊藤 有輝

神経生理検査ライブデモ実技研修会に参加して

志水穂乃花

超音波検査士対策セミナーに参加して

及川 綾花

令和5年度輸血細胞治療部門輸血検査実技講習会に参加して

石川 明子

〔施設紹介〕ゆきぐに大和病院

岡村 祐希

〔認定技師制度紹介〕認定病理検査技師について

柳原 優香

〔ペンリレー〕長谷川一稀

〔検査技師として～私の奮闘記～〕

新田 美樹、齊藤 有輝、清水佑莉圭、望月聡一郎、中山紅美子、堀 雄大、今井 佳子

〔会報〕

2023年度（令和5年度）第4回理事会議事録

2023年度（令和5年度）第5回理事会議事録

2023年度（令和5年度）第6回理事会議事録

新入会員紹介

新臨技会日誌

〔行事予定〕

〔編集後記〕

2. 新臨技ニュース

阿部 拓也

理事会議事要旨、連絡事項、求人情報など速報性・実用性のある情報を掲載してきた。またメール文書配信システムを活用し迅速に各施設に届くように努めてきた。発行目安は理事会終了後の月1回とした。

3. 新臨技ホームページ

近藤 善仁

ホームページは研修会案内・各支部活動・お知らせ・求人情報などをリアルタイムに掲載し、ネット環境があれば常時閲覧可能となっている。新型コロナウイルス感染症が5類へ移行し、対面での研修会も開催できるようになりweb研修会と併せて詳細情報や求人など会員へ有益な情報を迅速に提供できるよう心がけた。また、能登半島地震では、会員の被害状況を把握すべく調査に関するページを開設し広く情報提供を呼びかけた。

【主要行動報告】

1. 4月16日 第1回理事会
2. 4月22日 日臨技理事会へ桑原副会長出席
3. 5月9日 第1回表彰委員会
4. 5月12日 篠川至賞選考委員会
5. 6月13日 第2回理事会
6. 6月18日 第3回理事会
7. 6月24日 日臨技創立70周年・法人化60周年記念式典 渡邊会長、桑原副会長出席
8. 7月2日 令和5年度学術部会議（Web）
9. 7月8日 第1回精度管理委員会開催（現地+Web）
10. 7月12日 日本臨床検査技師連盟 北日本支部会議（Web） 田端副会長出席
11. 7月15日 第4回理事会
12. 7月16日 第2回新潟県臨床検査学会 WG 開催（Web）
13. 7月22日 日臨技理事会へ桑原副会長出席
14. 8月26日 令和5年度施設運営管理者協議会
15. 9月30日 第5回理事会
16. 10月6日 第38回がん征圧新潟県大会式典 田端副会長出席
17. 10月15日 第5回タスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣指定講習会
18. 10月15日 ピンクリボンホリデー 田端副会長、小丸理事出席
19. 10月29日 第6回理事会
20. 11月3日 令和5年度北日本支部内連絡会議へ桑原副会長出席
21. 11月4日 日臨技北日本支部医学検査学会第11回（福島市）へ渡邊会長・桑原副会長出席、
5日 畔上副会長・寺島事務局長・小林（清）理事視察
22. 11月5日 糖尿病を知るつどい2023へ田端副会長出席
23. 11月18日 第7回理事会
24. 11月19日 「検査と健康展2023 in 新潟」イオンモール新潟南にて開催
25. 11月25日 2023年度新潟薬科大学交流の会 渡邊会長出席
26. 11月27日 令和5年度新潟県検診精度管理調査委員会に渡邊会長、畔上副会長、田端副会長出席
27. 12月3日 第6回タスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣指定講習会
28. 12月10日 第96回新潟県臨床検査学会
第8回理事会開催
29. 1月13日 第9回理事会
30. 1月19日 地域ニューリーダー育成研修会 近藤理事出席
31. 1月24日 第97回新潟県臨床検査学会第1回 WG 会議
32. 1月26日 令和6年年賀詞交換会 渡邊会長、桑原副会長出席
33. 1月27日 日臨技全国会長会議 渡邊会長、桑原副会長出席
日臨技理事会 桑原副会長出席
34. 2月17日 第10回理事会
35. 2月24日 令和5年度地域リーダー育成研修会
36. 3月1日 令和5年度生物検査技術職員研修会・臨床検査精度管理調査検討会合同研修会
田端副会長出席
37. 3月2日 下越支部総会へ渡邊会長出席

38. 3月2日 新潟支部総会へ田端副会長出席
39. 3月2日 上越支部総会へ桑原副会長出席
40. 3月3日 第14回新潟県臨床細胞検学会研修会へ畔上副会長出席
41. 3月9日 佐渡支部総会
42. 3月10日 第7回タスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣指定講習会
43. 3月16日 中越支部総会へ桑原副会長出席
44. 3月31日 第11回理事会

事業報告に関わる附属明細書

事業報告を補足する事項はない。

令和5年度収支決算報告

貸借対照表

令和6年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	1,004,699	1,198,613	△ 193,914
前払金	0	0	0
未収金	13,075	0	13,075
流動資産合計	1,017,774	1,198,613	△ 180,839
2. 固定資産			
会館建設引当預金	15,000,000	15,000,000	0
共済基金	1,724,000	1,724,000	0
篠川至賞基金	10,300,000	10,304,286	△ 4,286
固定資産合計	27,024,000	27,028,286	△ 4,286
資産合計	28,041,774	28,226,899	△ 185,125
II. 負債の部			
1. 流動負債			
前受金	0	0	0
流動負債合計	0	0	0
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	0	0	0
III. 正味財産の部			
一般正味財産	28,041,774	28,226,899	△ 185,125
(うち特定資産への充当額)	(27,024,000)	(27,028,286)	(△ 4,286)
負債及び正味財産合計	28,041,774	28,226,899	△ 185,125

正味財産増減計算書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	10,254,500	10,367,000	△ 112,500
正会員受取会費	9,054,500	9,087,000	△ 32,500
賛助会員受取会費	1,200,000	1,280,000	△ 80,000
事業収益	1,915,483	1,371,000	544,483
参加費収益	1,155,483	571,000	584,483
会誌広告収益	760,000	800,000	△ 40,000
受託事業収益	0	0	0
受取補助金等	1,456,100	1,679,550	△ 223,450
受取民間助成金	1,456,100	1,679,550	△ 223,450
雑収益	734,405	111,690	622,715
受取利息	305	20,020	△ 19,715
協賛金収益	634,100	0	634,100
雑収益	100,000	91,670	8,330
経常収益計	14,360,488	13,529,240	831,248
(2) 経常費用			
事業費	10,356,739	9,255,801	1,100,938
学会費	1,682,808	1,408,257	274,551
運営費	640,561	167,480	473,081
学術部活動費	1,742,671	1,474,201	268,470
学術雑費	118,987	10,233	108,754
臨床検査精度保証費	274,007	253,903	20,104
会誌発行費	2,866,487	2,967,920	△ 101,433
広報編集費	664,104	677,274	△ 13,170
組織広報費	281,856	186,555	95,301
災害対策費	0	0	0
生涯教育表彰事業費	215,258	239,978	△ 24,720
組織強化費	1,870,000	1,870,000	0
管理費	4,317,967	3,903,372	414,595
備品費	28,979	0	28,979
消耗品費	11,378	39,534	△ 28,156
印刷費	43,889	67,476	△ 23,587
通信費	253,640	244,762	8,878
交通費	287,940	28,000	259,940
渉外対策費	50,189	50,130	59
給料手当	655,600	1,235,150	△ 579,550
退職給付費用	600,000	0	600,000

科 目	当年度	前年度	増減
会議旅費	849,744	746,480	103,264
事務所維持管理費	1,074,727	1,069,444	5,283
電話費	80,824	81,199	△ 375
事務所雑費	0	0	0
交際費	32,958	104,557	△ 71,599
総会費	347,303	229,416	117,887
雑費	796	7,224	△ 6,428
経常費用計	14,674,706	13,159,173	1,515,533
評価損益等調整前当期計上増減額	△ 314,218	370,067	△ 684,285
基本財産評価損益等			0
特定資産評価損益等			0
投資有価証券評価損益等			0
評価損益等計			0
当期経常増減額	△ 314,218	370,067	△ 684,285
2. 経常外増減の部			0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替額			0
当期一般正味財産増減額	△ 314,218	370,067	△ 684,285
一般正味財産期首残高	28,355,992	28,556,164	△ 200,172
一般正味財産期末残高	28,041,774	28,926,231	△ 884,457
II 指定正味財産増減の部			0
III 正味財産期末残高	28,041,774	28,926,231	△ 884,457

財 産 目 録

令和 6 年 3 月 31 日 現在

(単位：円)

科 目	金 額
I. 資産の部	
1. 流動資産	
現金	163,917
普通預金	
第四北越銀行臨港支店	783,773
ゆうちょ銀行	57,009
前払金	0
未収金	13,075
流動資産合計	1,017,774
2. 固定資産	
会館建設引当預金	
第四北越銀行臨港支店（定期 4 口）	10,000,000
ゆうちょ銀行（定額 4 口）	5,000,000
共済基金	
ゆうちょ銀行（定額 3 口）	1,724,000
篠川至賞基金	
第四北越銀行県庁支店（定期 3 口）	5,000,000
ゆうちょ銀行（定額 2 口）	5,300,000
固定資産合計	27,024,000
資産合計	28,041,774
II. 負債の部	
1. 流動負債	
前受金	0
流動負債合計	0
2. 固定負債	0
固定負債合計	0
負債合計	0
正味財産合計	28,041,774

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
小 計	-	-	-	-
特定資産				
会館建設引当預金	15,000,000			15,000,000
共済基金	1,724,000			1,724,000
篠川至賞基金	10,304,286		4,286	10,300,000
小 計	27,028,286	0	4,286	27,024,000
合 計	27,028,286	0	4,286	27,024,000

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に対応 する額)
基本財産				
小 計	-	-	(-)	-
特定資産				
会館建設引当預金	15,000,000	-	(15,000,000)	-
共済基金	1,724,000	-	(1,724,000)	-
篠川至賞基金	10,300,000	-	(10,300,000)	-
小 計	27,024,000	-	(27,024,000)	(-)
合 計	27,024,000	-	(27,024,000)	(-)

4. 助成金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

助成金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上 の記載区分
助成金						
受取検査学会研修助成金	日本臨床衛生検査技師会	0	1,256,100	1,256,100	0	
受取臨床検査精度保証助成金	新潟県医師会	0	200,000	200,000	0	
合 計		0	1,456,100	1,456,100	0	

計算書類に係わる附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

基本財産及び特定資産の明細は、財務諸表に対する注記2「基本財産及び特定資産の増減及びその残高」及び注記4「基本財産及び特定資産の財源等の内訳」に記載しているため省略する。

【上越支部】

〈支部研修会〉

1 秋季研修会：第121回上越支部研修会

日 時：令和5年9月9日（土）

会 場：新潟労災病院

講演1 「肝炎ウイルスの検査法とウイルス性肝炎について」

講 師 東北医科薬科大学病院 検査部 小堺 利恵 先生

アツヴィ合同会社 肝炎・オンコロジー事業本部 明石 俊一 先生

講演2 「凝固検査の基礎」

講 師 シスメックス株式会社 北関東支店 学術サポート課 栗山 広司 先生

参加者 25名

2 春季研修会：第122回上越支部研修会

日 時：令和6年3月2日（土）

会 場：高陽荘

講 演 「精度管理の基礎」

講 師 ニットーポーメディカル株式会社 学術部 学術グループ 高尾 吏 先生

参加者 27名

〈令和5年度通常総会〉

日 時：令和6年3月2日（土）

会 場：高陽荘

参加者 26名

〈研究班活動〉

1 検体研究班（臨床化学部門・微生物部門）

令和4・5年度班長：木島 貴志 技師

令和6年3月2日（土）高陽荘にて、ニットーポーメディカル株式会社 学術部 学術グループ 高尾 吏 先生を講師に迎え、「精度管理の基礎知識」の研修会を行った。参加者は27名であった。今年度は春季研修会と合同で開催した。

2 形態検査研究班（血液部門・血清部門・病理部門・一般部門）

令和4・5年度班長：市川 由里恵 技師

令和5年9月9日（土）新潟労災病院にて、シスメックス株式会社 北関東支店 学術サポート課 栗山 広司 先生を講師に迎え、「凝固検査の基礎」の研修会を行った。参加者は25名であった。今年度は秋季研修会と合同で開催した。

3 生理検査研究班（生理検査部門）

令和4・5年度班長：牛木 加奈子 技師

令和5年10月14日（土）新潟労災病院にて、獨協医科大学埼玉医療センター超音波センター技師長 戸出 浩之 先生を講師に迎え、「心エコーの基本計測と描出のポイント」をテーマに研修会を行った。参加者は39名であった。

〈地域保健活動〉

今年度は開催が無かった。

〈広報活動〉（上越支部会員向け）

支部だよりを第227号から第230号まで計4回発行。

〈役員会議〉

2023年（令和5年）

- 4月20日（木）定例役員会（ZoomによるWeb開催）
- 5月18日（木）拡大役員会（ZoomによるWeb開催）
- 6月15日（木）定例役員会（対面形式）
- 7月20日（木）定例役員会（ZoomによるWeb開催）
- 8月17日（木）定例役員会（対面形式）
- 9月9日（土）定例役員会（秋季研修会後に対面形式）
- 10月14日（土）定例役員会（生理検査研究班研修会後に対面形式）
- 12月21日（木）定例役員会（対面形式）

2024年（令和6年）

- 2月15日（木）定例役員会（対面形式）

【中越支部】

〈学術〉

- 1) 令和5年度中越支部フォーラム [生涯教育認定 基礎20] 参加会員21名

日時：令和5年7月29日（土）

開催場所：ハイブ長岡

講演1 『尿検査のピットフォールと尿沈渣検査の基礎（変形赤血球について）』

【講師】 アークレイマーケティング（株） 柴崎 涼 先生

講演2 『臨床検査技師会の役割と活動について（仮題）』

【講師】 新潟県臨床検査技師会 桑原 喜久男 副会長

- 2) 令和5年度中越支部ふれあい研修会 [生涯教育認定 基礎20] 参加会員27名

日時：令和5年12月2日（土）

開催場所：ハイブ長岡

テーマ：『何度聞いてもためになる！ 日常検査の基礎とピットフォール』

講演1 「感染症診断に用いるイムノクロマト法とPCR法について」

【講師】（株）ミズホメディー 営業企画部 学術課 古賀 稔 様

講演2 「血液型検査について ～Zoom講演～」

【講師】 オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス イムノヘマトロジー事業部
マーケティング部 テクニカルサービス 齋藤 大輔 様

講演3 『グラム染色・抗酸菌染色について』

【講師】 新潟県済生会三条病院 渡邊 亮太 技師

- 3) 令和5年度中越支部講演会 [生涯教育認定 専門20] 参加会員39名

日時：令和6年3月16日（土）

開催場所：ハイブ長岡

講演 『アイデアを共有しよう：臨床検査技師の専門性とマルチスキルのバランスを共に考える』

【講師】 ロシユ・ダイアグノスティックス株式会社 プロフェッショナル本部

コンサルティングキャプター コンサルティンググループ 石原 典明 先生

〈学術支援事業〉

令和5年度は中越支部会員からの学術支援申請はなかった。

令和6年度も引き続き予算を設け、研究会等への学術支援を行う。

〈組織〉

1) 公益事業：「家族で守ろうババの健康」

日時：令和5年7月9日

場所：国営越後丘陵公園 花と緑の館

参加者：支部会員5名〔生涯教育認定 基礎20〕

実施内容：簡易血糖測定

2) 公益事業：「第35回糖尿病を知るつどい～アオーレで知ろーれ糖尿病2023～」

日時：令和5年11月19日

場所：アオーレ長岡1階市民交流ホールA、ホワイエ

参加者：支部理事10名〔生涯教育認定 基礎20〕

実施内容：簡易血糖測定・HbA1c測定

3) 令和5年度中越支部通常総会〔生涯教育認定 基礎30〕参加会員26名

日時：令和6年3月16日

開催場所：ハイブ長岡

〈広報〉

県技師会のホームページに支部開催研修会等の最新情報を掲載した。サイト上の支部ページも随時更新し、今年度は支部会誌「やまあい」第140号、141号を発行した。

〔新臨技ホームページ〕アドレス <http://www.sinringi.or.jp/>

〈令和4年度会議録〉

第1回理事会 令和5年4月22日（土）16：00～18：00【Zoom会議】

議題：支部理事担当業務・県理事選出について

支部研修会開催について

今年度公益事業参加予定について

第2回理事会 令和5年5月27日（土）16：00～18：00【Zoom会議】

議題：支部研修会開催について

今年度公益事業参加予定について

第3回理事会 令和5年6月24日（土）16：00～18：00【Zoom会議】

議題：支部研修会開催について

今年度公益事業参加予定について

第4回理事会 令和5年7月29日（土）【対面開催：研修会会場にて】

議題：Web研修会進捗について

今年度公益事業開催予定について

第5回理事会 令和5年9月23日（土）16：00～18：00【Zoom会議】

議題：Web研修会進捗と企画・運営方針について

11月の公益事業について

第6回理事会 令和5年10月29日（日）【Zoom会議】

議題：支部ふれあい研修会について

11月19日公益事業参加について

第7回理事会 令和5年11月25日(土) 16:00~18:00【Zoom会議】

議題：支部ふれあい研修会の役割分担について

令和5年度支部講演会・総会開催について

第8回理事会 令和6年1月27日(土)【Zoom会議】

議題：支部講演会・総会進捗について

今後の支部理事会の開催について

第9回理事会 令和6年3月23日(土)【Zoom会議】

議題：支部役員について

次年度の支部活動について

次回支部研修会について

【下越支部】

〈研修会等〉

(1) 第1回支部研修会

日時：令和5年9月2日(土) 14:00~16:30

場所：(一財)下越総合健康開発センター 2階 大講堂

内容：「検体検査の正確性 ~データに誤差を与える要因を学ぼう~」

【講演1】「血球計数・凝固検査に誤差を与える要因とは…」

講師 シスメックス株式会社 北関東支店 学術サポート課 館野 真介 先生

シスメックス株式会社 北関東支店 学術サポート課 谷口 昂生 先生

【講演2】「測定データに影響を与える要因について」

講師 新潟県立新発田病院 小野間 健介 先生

【講演3】「これで安心！尿定性・尿沈渣・髄液検査での誤差を与える要因と対策」

講師 新潟医療福祉大学 横山 貴 先生

参加者：31名(会員28名)

生涯教育認定 専門20点

(2) 第2回支部研修会および総会

日時：令和6年3月2日(土) 14:00~16:30

場所：(一財)下越総合健康開発センター 2階 大講堂

内容：【講演1】 血液ガスの基礎

講師 アイ・エル・ジャパン株式会社 カスタマーサポート 藤沼 紀仁 先生

【講演2】 標準採血法 ~採血ガイドラインの再確認~

講師 日本ベクトン・ディッキンソン株式会社 坂本 晃一 先生

【講演3】 認知症と臨床検査

~超高齢化社会における臨床検査技師の役割~

講師 JA 新潟厚生連柏崎総合医療センター 寺島 健 先生

参加者：28名(会員27名)

生涯教育認定 専門20点

内容：「下越支部総会」

参加者：12名(委任状117名)

生涯教育認定 基礎30点

〈下越支部理事会〉

- 第1回：3月23日（下越総合健康開発センター）
- 第2回：4月18日（Zoom）
- 第3回：5月16日（Zoom）
- 第4回：6月20日（Zoom）
- 第5回：7月18日（Zoom）
- 第6回：8月22日（Zoom）
- 第7回：9月2日（下越総合健康開発センター）
- 第8回：10月17日（Zoom）
- 第9回：12月19日（Zoom）
- 第10回：2月13日（Zoom）
- 第11回：3月2日（下越総合健康開発センター）

〈ホームページ〉

下越支部ホームページについては研修会の案内、参加報告など更新した。

【佐渡支部】

〈研修会等〉

1. 第1回佐渡支部研修会

日時：令和5年10月28日（土）13：00～17：00

場所：佐渡総合病院2階講堂

座長：新潟県労働衛生医学協会佐渡検診センター 磯西 拓人 技師

内容：1) 「尿試験紙の正しい測定方法と注意点」

講師：栄研化学株式会社 販売推進室 大島 知樹 先生

2) スキルアップ！上皮細胞類・異型細胞類の鑑別

講師：学校法人新潟総合学園 新潟医療福祉大学医療技術学部臨床技術学科 横山 貴 先生

3) 鏡検実習

講師：新潟薬科大学附属医療技術専門学校 白川 千恵子 先生

新潟聖籠病院検査科 齋藤 直子 先生

生涯教育認定：専門20点 参加者：26名

2. 第2回佐渡支部研修会

日時：令和6年3月9日（土）14：00～16：20

場所：佐渡総合病院2階講堂

座長：JA新潟厚生連佐渡総合病院 中原 万理 技師

内容：1) 「救急講習」

講師：佐渡市消防本部職員による実技講習

2) 「今さら聞けない 救急検査の基礎知識（Web）」

講師：新潟県立妙高病院検査科 高橋 政江 先生

生涯教育認定：専門20点、参加者：27名

3. 佐渡支部総会

日時：令和6年3月9日（土）16：30～17：00

場所：佐渡総合病院2階講堂

生涯教育認定：基礎30点 参加者：26名

〈公益事業〉

佐渡糖尿病ウォークラリー（糖尿病友の会主催）

日時：令和5年10月1日（日）9：30～13：00

場所：おんでこドーム

事業内容：参加者の簡易血糖測定実施 実務委員4名参加

〈佐渡支部理事会〉

第1回 令和5年6月30日（金）18：00～19：30 佐渡総合病院技師室

第2回 令和5年9月22日（金）18：00～19：10 佐渡総合病院技師室

第3回 令和6年2月9日（金）18：00～19：00 佐渡総合病院技師室

【新潟支部】

〈支部研修会〉

【令和4年度第2回新潟支部研修会（Web開催）】2023/2/26

参加人数：78名

「これだけは知っておこう！輸血の基礎知識」

古俣 妙（新潟県赤十字血液センター）

【令和5年度第1回新潟支部研修会（Web開催）】2023/7/22

参加人数：20名

「肝炎ウイルス検査結果告知漏れのない『検査結果説明、受診・受療勧奨』徹底の重要性」

明石 俊一（アツヴィ合同会社肝炎・オンコロジー事業本部肝炎戦略統括部市場戦略部）

「HCVの告知漏れ対策について」

角屋 勇氣（医療法人崇徳会長岡西病院）

【令和5年度第2回新潟支部研修会（Web開催）】2023/11/25

参加人数：45名

「認定資格について～取得のきっかけ、試験内容、職場での活用～」

小野 篤史（済生会新潟病院）

長井 菜々子（県立がんセンター新潟病院）

田中 加奈子（新潟県労働衛生医学協会）

田中 利佳（新潟市民病院）

千味 和宏（済生会新潟病院）

〈臨床化学検査研究班〉

なし

〈血液検査研究班〉

【令和5年度臨床血液部門研修会（新潟支部合同）（Web開催）】2023/12/22

参加人数：31名

「造血器腫瘍のWHO分類第5版の改訂ポイント」

新保 敬 (獨協医科大学病院 臨床検査センター)

(生理検査研究班)

【令和5年度 新潟支部生理研究班研修会 (Web開催)】2024/1/14

参加人数：146名

「頸動脈エコー評価の基本と実際」

小谷 敦志 (近畿大学奈良病院 臨床検査部)

「心エコー検査の各種計測について」

内藤 博之 (医療法人社団日高会 日高病院 臨床検査室)

(一般検査研究班)

【第52回新潟支部一般検査研究班研修会 (現地開催)】2023/5/28

参加人数：18名

①標本作製と顕微鏡の使い方

高橋 佳乃 (新潟南病院)

②非上皮系細胞について (鏡検)

深谷 響己 (新潟大学医歯学総合病院)

③上皮細胞について(1) (鏡検)

伊藤 千香子 (済生会新潟病院)

④スライドカンファレンス

白川 千恵子 (新潟薬科大学)

【第53回新潟支部一般検査研究班研修会 (現地開催)】2023/6/11

参加人数：29名

①非上皮細胞について (尿中赤血球形態・鏡検)

伊藤 千香子 (済生会新潟病院)

②上皮細胞について(2) (鏡検)

深谷 響己 (新潟大学医歯学総合病院)

③円柱・結晶について (鏡検)

高橋 佳乃 (新潟南病院)

④スライドカンファレンス

小野 篤史 (済生会新潟病院)

【第54回新潟支部一般検査研究班研修会 (現地開催)】2023/6/18

参加人数：15名

①その他の成分、尿沈渣検査のコツ

小野 篤史 (済生会新潟病院)

②標本作製から結果報告を振り返ろう！

深谷 響己 (新潟大学医歯学総合病院)

③各沈渣成分をじっくり鏡検しよう！

深谷 響己 (新潟大学医歯学総合病院)

④スライドカンファレンス

計良 政裕 (新潟県労働衛生医学協会)

【第55回新潟支部一般検査研究班研修会 (現地開催)】2023/11/18

参加人数：14名

①寄生虫検査について (講義)

②腸管寄生虫を中心に鏡検してみよう (鏡検)

③直接塗抹・MGL、シヨ糖遠心浮遊法 (実技)

小林 浩二 (北里大学保健衛生専門学院)

(病理検査研究班)

【第44回 新潟病理技術研究会 (Web開催)】2024/1/27開催

参加人数：24名

①薄切 (遺伝子検索用未染作製)・HE染色・検体管理

池亀 央嗣 高橋 加奈絵 (新潟大学医歯学総合病院病理部)

②薄切 (大型切片等特殊な薄切)・HE染色・検体管理

丹田 智恵子 砂塚 眞子 (新潟大学脳研究所病理学分野)

③薄切 (研究用連続切片)・HE染色・検体管理

山口 尚之 (新潟大学医学部臨床病理学分野)

(細菌検査研究班)

【第133回新潟支部微生物研究会 (Web 開催)】 2023/11/16

参加人数：17名

①「アフターコロナにおける LAMP 法の活用」

小岩井 成貴 (栄研化学株式会社 営業統括部 販売推進室販売推進三部一課)

②「アフターコロナにおける PCR 検査機器の活用について オンデマンド測定で結核菌・C.dificile・MRSA 迅速検出の利点」

堂浦 照也 (ベックマン・コールター株式会社ダイアグノスティックス営業統括本部マイクロバイオロジー統括部営業推進部スペシャリスト)

③「アフター／ウィズコロナ時代の Smart Gene[®] の活用法 (消化器感染症) について」

古賀 稔 (株式会社ミズホメディー営業企画部学術課)

(公益活動、その他)

【令和4年度一般社団法人新潟県臨床検査技師会新潟支部定期総会】 2023/2/26

参加人数：30名

総会及び幹事会

1) 支部定期総会

令和5年2月26日(日) 新潟県臨床検査技師会事務所 + Zoom による Web 開催

2) 第1回 新潟支部幹事会

令和5年3月22日(水) 19:00～ 新潟県臨床検査技師会事務所 + Zoom による Web 開催

3) 第2回 新潟支部幹事会

令和5年4月19日(水) 19:00～ 新潟県臨床検査技師会事務所

4) 第3回 新潟支部幹事会

令和5年6月14日(水) 19:00～ 新潟県臨床検査技師会事務所

5) 第4回 新潟支部幹事会

令和5年7月22日(土) 15:00～ 新潟県臨床検査技師会事務所 + Zoom による Web 開催

6) 第5回 新潟支部幹事会

令和5年9月20日(水) 19:00～ 新潟県臨床検査技師会事務所

7) 第6回 新潟支部幹事会

令和5年10月18日(水) 19:00～ 新潟県臨床検査技師会事務所

8) 第7回 新潟支部幹事会

令和5年11月25日(土) 15:00～ 新潟県臨床検査技師会事務所

9) 第8回 新潟支部幹事会

令和5年12月13日(水) 19:00～ 新潟県臨床検査技師会事務所

10) 第9回 新潟支部幹事会

令和6年1月17日(水) 19:00～ 新潟県臨床検査技師会事務所

11) 第10回 新潟支部幹事会

令和6年2月21日(水) 19:00～ 新潟県臨床検査技師会事務所

第3号議案

令和5年度監査報告について

第4号議案

支部提出議案について

第5号議案

日臨技定時総会提出議案について

令和6年度事業計画

会長

渡邊 博昭

令和6年度は役員任期後期であり、基本的には事業をそのまま引き継ぎ、とどこおりなく会務を遂行する。新規または重要な事業を下記の通り計画する。

総務部

- ① 引き続き規定および手順書の検証をする。
- ② 災害対策

学術部

- ① 第97回新潟県臨床検査学会の企画・運営を行う。
- ② 令和7年度日臨技北日本支部医学検査学会（第13回）の企画を行う。
- ③ ニュージーリーダーの育成や職能向上・職能開発、認知症検査に関わる講習会を開催する。
- ④ 検査研究部門活動の助成金申請制度を20研修会申請する。

広報部

- ① ホームページのさらなる充実を図る。

1. 通常総会の開催

令和5年5月8日から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の扱いが5類指定感染症へと見直されたため、今後は従来の活動形態へ実施していく。また、通常総会と同時開催する臨床検査セミナーは、技師会事業として定着していたが、開催を計画していく。

2. 会務の執行体制

令和6年度においては円滑な業務運営を進めるためにも、各種規定・マニュアル等の周知に努めたい。また、活動の要である事務局機能は各県技師会および日臨技との連絡・調整の場として、更なる会員サービスの向上に努めたい。組織強化の面からは、日臨技、北日本支部、新臨技支部、会員各位と協力しながら情報交換を図り、一人でも多くの会員から技師会の意義を感じ取ってもらえる環境・体制を整えたい。

3. 諸会議の開催

1) 理事会・常任理事会

連携を密にするために、会議方法は Zoom による WEB 開催と現地開催を計画的に実施していき、総会に次ぐ議決機関として理事会・常任理事会を開催したい。

2) 三役会議・各部会議

諸会議の立案や各種業務内容の検討・調整を図るため、必要に応じて適宜開催する。

3) 各種委員会

本会活動の要としての役割を担っており、本年度も更に活発に運営して行きたい。

4. 組織対策

1) 入会対策

益々厳しくなる医療情勢ではあるが、職能団体としての機能をさらに発揮するためには組織拡大と成熟が重要であり、各支部各施設の理解と協力を得ながら新入会員を確保して行きたい。また、臨床検査技師のさらなる地位向上および職域拡大を進めるためにも、臨床検査技師連盟への入会促進に積極的に働きかけていく。

2) 各支部との連携

各支部持ち回りの新潟県臨床検査学会開催については、会場確保および参加人数等の問題もあり、第91回から新潟市で開催している。学術部と支部との連携を強化するとともに、本会の事業方針の展開と臨床検査の発展を目指したい。

3) 会員施設との連携強化

施設運営管理者協議会を1年に1回開催していき、新臨技・日臨技の事業説明等の理解を図りながら各施設の意見を吸い上げ、新臨技活動につなげたい。今年度も多くの施設運営管理者からの出席を図れるよう努めたい。また、本協議会の運営を強化するためにも施設運営管理者協議会の広報を進め、各施設からの登録をお願いしていく。

5. 地域保健医療活動および公益事業

令和6年度は、各団体の活動形態が再開していくものと予想され、一般社団法人として県民の保健・医療・公衆衛生の更なる向上を目指していく。臨床検査技師として、社会貢献の取り組み、全国検査と健康展など日臨技事業の開催、関連職種団体との連携強化を進め、本年度も地域保健医療活動に積極的に参画していきけるよう努める。

6. 求人情報

会員へは新臨技ニュースやホームページ等で求人情報を提供したい。

7. 災害関係

災害時の支援活動に威力を発揮するためにも、災害支援マニュアル整備に努める。

8. 表彰関係

1) 第42回篠川至賞

令和6年度で第42回となる篠川至賞は、その制定主旨により、各支部からの推薦者の中から篠川至賞選考委員会の審査を経て表彰されるものであり、会員の励みにもなっている。検査研究部門からも情報協力いただき、各支部からの積極的な推薦のうえ表彰する。

2) 令和6年度功労者表彰

特別功労表彰、永年会員功労表彰は新臨技表彰規定に基づき、それぞれの基準に該当する者について表彰する。

3) 名誉会員

新臨技表彰規定に基づき、それぞれの基準に該当する者について表彰する。

4) 令和4・5年度生涯教育履修表彰

奨励賞では多くの会員の生涯教育および学術活動への参画と活性化を求めべく、分野に関わらず最多得点者の上位3名を表彰する。また、生涯教育新人賞では臨床検査教育の場としての研修会等への参加を通じ、更なる技師会活動への参画に期待し、分野に関わらず20代会員の最多得点修了者を表彰する。

5) 学会表彰

新潟県臨床検査学会で優秀な演題発表をした者を表彰する。

6) その他

各団体の表彰の基準に該当する者については積極的に推薦をしていく。

学術部	副会長 桑原喜久男
-----	-----------

令和6年度も検査研究部門活動、新潟県臨床検査学会、生涯教育活動を中心として活動を進める。令和7年度に令和7年度日臨技北日本支部医学検査学会第13回を朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにて開催する。担当県として時代に即した企画、準備を現学術部中心として進める。

1. 学会

桑原喜久男

第97回新潟県臨床検査学会を令和6年9月29日(日)、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにて開催を予定している。一般演題、教育講演、特別企画の開催予定しており、ランチョンセミナー、機器展示を行い賛助会員も含め、多くの会員、臨床検査技師を目指す学生の皆さんも多く集まれる事のできる学会を目指す。

2. 検査研究部門

小林 清子

検査研究部門が企画運営する研修会は、技師会における重要な活動の一つである。医療制度や検査技術が、日々変化していく医療現場においては新たな知識や技術を習得し実践していくことが極めて重要である。そのため、検査研究部門が企画運営する各種研修会が担う役割は大きい。

検査研究部門は、生物化学分析部門、臨床一般部門、臨床血液部門、臨床微生物部門、輸血細胞治療部門、病理細胞部門、染色体・遺伝子部門、臨床生理部門(神経生理分野、呼吸・循環生理分野、超音波分野)、臨床検査総合部門(管理運営分野、救急検査分野、公衆衛生・生殖医療分野)の9部門6分野で構成され、各部門の活動費は12万円、各分野は8万円とする。

研修会参加費は、受益者負担の原則の下で過剰な負担が及ばない程度で運営経費を補完する。なお令和6年度からはWEB研修であっても参加費を徴収し、研修会の運営に当たるよう、各部門と運営方法の情報共有を行いながら実施していく。非会員の研修会参加費は会員の3倍とし、会員利益と活動費補完をはかる。また、参加は会員優先とする。

研修会開催は、新型コロナウイルス感染対策を十分に行ったうえで、現地開催やワークショップ、実技研修

会など、対面での研修にオンライン研修会を並行しながら行う。知識や技術の向上のため、会員の声を反映した有益な学術活動を運営していく。各部門には、最低1回以上の研修会の実施をお願いしたい。

研修会の内容は、基礎的内容から専門性を高める内容など、様々な状況下にある会員に有益で魅力的な研修会をバランスよく開催できるよう体制を整え、企画運営にあたる。特に、技術や知識が複数の分野に係る内容に関しては、複数部門での合同研修会や他団体との共催による研修会を企画することを奨励する。

幅広い知識や技術を習得できるよう会員にとって魅力ある活発な学術活動を展開していきたい。

3. 精度管理事業

田端 篤

本事業は新潟県医師会が新潟県から委託を受け、新潟県臨床検査精度管理協議会を設置して推進している事業である。本会としては、地域医療への貢献と会員の技術向上という点から重要な事業であるという位置づけで積極的に協力していく。

令和6年度も臨床化学、微生物、血球計算、血液フォトサーベイ、一般フォトサーベイをさらに充実させ実施を予定している。また臨床検査室の品質保証施設認証制度・共用基準範囲についても多くの施設の理解が得られるよう啓発を進めていきたい。

4. 生涯教育

近藤 善仁

生涯教育研修制度は、臨床検査技師の知識や技術水準の維持・向上を目的とし、会員の自発的な学習を組織的に援助する制度である。会員は定められた履修期間・カリキュラムを基に履修点数を取得する。また、ボランティア活動や臨床検査の普及のための啓発活動などに対して生涯教育行事登録を行い、活動を支援している。本年度も現地開催やWeb研修会など社会状況に応じた研修会を実施し生涯教育の登録を進めていく。加えてボランティア活動など啓発運動も併せて登録を進めていく。日臨技情報総合システム（JAMTIS）の運用および「生涯教育推進研修会助成金」の申請と助成金受領の支援を引き続き図っていく。

広報部

副会長 田端 篤

令和6年度も新臨技会誌、新臨技ニュース、新臨技ホームページの3本柱での運営を通して会員へ向けたレスポンスの良い情報を例年通り安定提供したい。また、ホームページの情報発信においては会員に有益な情報をいち早く提供していきたい。会誌においては学術的な内容を基本とする中で、様々な企画を取り入れながら会員に有益な情報を提供できる会誌を目指していきたい。県理事、各支部理事、会員全員で情報の共有化を尚一層強化するためにも、新臨技会誌、新臨技ニュース、新臨技ホームページを充実させていきたい。

1. 新臨技会誌

神林 真弓

会誌発行は331号から334号までの年4回季刊発行を予定する。

〔講義・研究〕引き続き基礎から専門分野まで幅広く焦点を当てて掲載していきたい。

〔研修会参加報告〕今年度も参加会員の協力のもと、情報提供や会員の研鑽の頁としたい。

〔ペンリレー〕〔新入会員紹介〕〔検査技師として～私の奮闘記～〕

会員同士の親睦をはかり、多くの方が参加できるツールとしたい。

〔公益活動報告〕昨年よりいくつもの公益事業が再開され、理事や会員の皆様と参加することが出来た。また改めて臨床検査技師の活躍の場の一つとして公益活動の大切さを広く知っていただく頁としたい。

〔認定検査技師制度〕認定取得者からの経験談やアドバイスを掲載し、各種認定取得を目指している多くの会員を支援したい。

〔施設紹介〕臨床検査技師の活躍の場としてあらゆる地域の施設を紹介していきたい。

〔学会参加報告〕学会で発表する意義や、当日までのプロセスなどを掲載し、これから発表を考えている人

たちの参考となるような頁にしたい。

2. 新臨技ニュース

阿部 拓也

理事会議事録、連絡事項、求人情報など速報性・実用性のある内容を掲載していきたい。また、今後も広く会員に読まれるようなレイアウトを心がけたい。発行目安は月1回とし、理事会終了後、速やかに発行できるよう努めたい。

3. 新臨技ホームページ

近藤 善仁

昨今のスマートフォンの普及により、サイトへのアクセスも増加し、ページ内容への期待も増えている。現在、災害対策のページが機能していないので、理事会で検討し有益な情報を発信できるよう準備していきたい。また、メール文書配信システムや施設運営管理者協議会連絡用メールアドレスの登録フォームも引き続き運用していく。

令和6年度収支予算書

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

(単位：円)

科 目	予算額	前年予算額	増減	摘要
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
受取会費	10,170,000	10,250,000	△ 80,000	
正会員受取会費	8,970,000	8,970,000	0	1,380名×6,500円
賛助会員受取会費	1,200,000	1,280,000	△ 80,000	60社×20,000円
事業収益	1,360,000	2,200,000	△ 840,000	
参加費収益	600,000	600,000	0	県学会300名×2,000円
会誌広告収益	760,000	600,000	160,000	19社継続予定
受託事業収益	0	1,000,000	△ 1,000,000	
受取補助金等	1,600,000	1,200,000	400,000	
受取民間助成金	1,600,000	1,200,000	400,000	日臨技、医師会
雑収益	651,000	205,000	446,000	
受取利息	1,000	5,000	△ 4,000	
協賛金収益	600,000	100,000	500,000	県学会（ランチョンセミナー、機器展示）
雑収益	50,000	100,000	△ 50,000	
経常収益計	13,781,000	13,855,000	△ 74,000	
(2) 経常費用				
事業費	10,980,000	12,730,000	△ 1,750,000	
学会費	1,500,000	1,500,000	0	第97回新潟県学会
運営費	1,000,000	1,500,000	△ 500,000	タスク・シフト／シェア講習会 施設運営管理者協議会 新潟県臨床検査技師会リーダー育成研修会
学術部活動費	2,000,000	2,500,000	△ 500,000	検査研究部門委員会研修会
学術雑費	100,000	120,000	△ 20,000	講師税税金、参加証明書
臨床検査精度保証費	300,000	450,000	△ 150,000	新潟県精度管理事業
会誌発行費	3,000,000	2,600,000	400,000	会誌印刷、発送（4回）
広報編集費	700,000	800,000	△ 100,000	会誌編集
組織広報費	300,000	900,000	△ 600,000	「ピンクリボンホリデー」「検査と健康展」等
災害対策費	10,000	200,000	△ 190,000	
生涯教育表彰事業費	200,000	200,000	0	「篠川至賞」等、表彰委員会活動
組織強化費	1,870,000	1,960,000	△ 90,000	支部活動費
管理費	5,210,000	6,080,000	△ 870,000	
備品費	400,000	200,000	200,000	新臨技事務所のパソコン入替予定
消耗品費	50,000	100,000	△ 50,000	文房具
印刷費	100,000	300,000	△ 200,000	総会案内、封筒印刷
通信費	300,000	500,000	△ 200,000	案内発送、振込手数料
交通費	500,000	300,000	200,000	日臨技、北日本支部会議

科 目	予算額	前年予算額	増減	摘要
渉外対策費	100,000	300,000	△ 200,000	関連団体会費
給料手当	700,000	1,250,000	△ 550,000	新臨技事務員給与
退職給付費用	600,000	0	600,000	新臨技前事務員退職金
会議旅費	800,000	800,000	0	理事会日当、交通費
事務所維持管理費	1,200,000	1,750,000	△ 550,000	新臨技事務所賃貸料
電話費	90,000	120,000	△ 30,000	
事務所雑費	10,000	30,000	△ 20,000	
交際費	100,000	150,000	△ 50,000	慶弔費、中元・歳暮
総会費	250,000	250,000	0	議決権行使書送料
雑費	10,000	30,000	△ 20,000	労働保険
経常費用計	16,190,000	18,810,000	△ 2,620,000	
評価損益等調整前当期計上増減額	△ 2,409,000	△ 4,955,000	2,546,000	
基本財産評価損益等				
特定資産評価損益等				
投資有価証券評価損益等				
評価損益等計				
当期経常増減額	△ 2,409,000	△ 4,955,000	2,546,000	
2. 経常外増減の部				
当期経常外増減額	0	0		
他会計振替額				
当期一般正味財産増減額	△ 2,409,000	△ 4,955,000	2,546,000	
一般正味財産期首残高	28,041,774	24,271,164	3,770,610	
一般正味財産期末残高	25,632,774	19,316,164	6,316,610	
II 指定正味財産増減の部				
III 正味財産期末残高	25,632,774	19,316,164	6,316,610	